

# 紫野

2021 Vol.13

びわこ学院大学 広報誌  
びわこ学院大学短期大学部

発行 令和3年10月

小さな大学で大きく学ぶ  びわこ学院大学  
びわこ学院大学短期大学部

## 【掲載目次】

《巻頭特集》

学長対談 地域の活性化に向けて  
湖東信用金庫 理事長 山本 英司さん × 沖田 行司 学長

《学生・教員の声》

地域における教育実践を通じて

《近況報告》

子ども学科、スポーツ教育学科、ライフデザイン学科、教員紹介

《卒業生状況》

就職状況、免許資格取得状況

《びわ学News》

本学卒業生が滋賀県住みます芸人に就任 「ノーサイン」インタビュー



# 地域の活性化に向けて

本学と湖東信用金庫は、相互の連携を強化し、地域の活性化及び人材教育・育成・交流を図ることにより、地域社会の持続可能な発展ならびに課題解決に寄与することを目的に、令和3（2021）年1月に包括的地域連携協定を締結しました。

人口減少、少子高齢化など大きな社会的課題がある中、これからの大学や金融機関は地域でどのような役割を果たすべきか。湖東信用金庫理事長の山本英司様をゲストにお招きし、沖田学長と対談していただきました。（対談日 8月11日）

**沖田** ご多忙のところお時間をいただき、ありがとうございます。本日は、どうぞよろしくお願いたします。

**山本** こちらこそ、貴重な機会をいただきありがとうございます。どうぞよろしくお願いたします。

## 地域に根差した活動の成果と課題

－湖東信用金庫は、経営理念に「地域産業と地域社会の発展に貢献することを最大の使命としている。」と明記されており、びわこ学院大学も「地域に貢献できる人材育成」を建学の精神としています。まずは、経営理念や建学の精神を具現化するために実施されている代表的な活動等について、お聞かせください。

**山本** 湖東信用金庫の経営理念は「報恩感謝」を旨として、地域産業と地域社会の発展に貢献することを最大の使命としています。その原点は、相互扶助を理念として昭和26年に制定され、今年で70年の節目を迎えた信用金庫法にあります。

そして、信用金庫の3つのビジョンとして、①中小企業の健全な発展②豊かな国民生活の実現③地域社会繁栄への奉仕があります。このことを常に念頭に置き、営業活動をしています。信用金庫の最大の特徴は、地域金融機関であるということです。地域事業者さまの事業発展のお手伝いや、地域住民の皆さまの資産形成のお手伝いを行うことで、地域社会が持続し発展すると考えています。今、言われている「地方創生」は正に我々、信用金庫の仕事だと考えています。

湖東信用金庫の考える地方創生とは地域事業者を元気にすることです。地域事業者が元気になることにより雇用創出が期待でき、また、雇用された消費者が地域で購買をすることにより、地域内でのお金の循環ができ、地域全体の底上げをすることができると考えています。

**沖田** 短期大学部学生が県内の重要伝統的建造物群保存地区（東近江、彦根、近江八幡）で近江米「みずかがみ」のPRを通じて、観光客誘致を目指した「めしませ、近江のおむすびプロジェクト」が昨年度から開始されました。残念ながら、コロナ禍の影響で活動は中断していますが、このプロジェクトをきっかけに、湖東信用金庫様、滋賀中央信用金庫様と包括連携協定を締結することができました。

他にも、東近江地域における「高齢者を対象にした健康教室」の開催、「近江鉄道を活用した地域の活性化プロジェクト」、子ども虐待防止「オレンジリボン運動」への取り組みなど、学生が地域に足を運び、そこに存在する課題を発見し、課題解決にむけ、仲間と協力しながら取り組む学びに力を入れています。



めしませ、近江のおむすびプロジェクトチラシ

－地域貢献活動への取り組みによる成果、その課題についてお聞かせください。

**山本** 基本的には地域金融機関である信用金庫が、本業である融資業務や預金・為替業務をしっかりと果たしていくことが、地域貢献につながると考えています。

そのことからすれば、昨年2月頃から広がった新型コロナウイルス感染症の影響で、飲食業やサービス業をはじめとした事業者さんの売上げが激減したことで、どうやって事業を続けていくのが大きな問題となりました。この様な中、国や県においてコロナ対策の制度資金ができました。

弊金庫としては、相談窓口を設置するとともに、制度資金である新型コロナウイルス感染症対応融資を積極的に取り扱いました。その結果、昨年度1年間で1,231件、165億円の資金繰り支援の対応を行いました。加えて、多くの事業者さまに対し給付金や補助金の情報提供や申請手続きのお手伝いをしました。

ただ、資金繰り支援をしたもののなかなかコロナの状況も良くならず、景況が厳しい中、事業者さまは今後借入されたコロナ資金を10年以内に返済していかなくてはなりません。また、少子高齢化が進む中、今後事業継承をどうしていくのか…等、課題は山積しています。

**沖田** コロナ禍の対応は大学も苦労していますが、金融機関のご苦労も相当だと推察します。

**山本** 去年はコロナ禍の対応について、本当に職員が頑張ってくれました。地域の皆さまに感謝の言葉をいただける機会も増え「やり甲斐を感じた」と話してくれる職員も多くなりました。職員の頑張りや地域貢献につながり、そして職員自身のやり甲斐につながった、このことは嬉しいことでした。



びわこ学院大学  
学長 沖田 行司

湖東信用金庫  
理事長 山本 英司さん

**沖田** 大学規模も色々ありますが、地方小規模大学ならではの役割があると考えています。学生の頑張りが地域貢献につながり、そして学生自身の深い学びにつながる、このような仕組みを少しでも増やして行きたい。本学は滋賀県出身×自宅通学×地元就職希望の割合が圧倒的に高いので、在学中の経験が、将来の地域貢献につながっていくことが理想です。

また、地域の企業経営者の方々などが講師となって活きた知識を伝授いただき、それを受けた学生の中に起業家を志す者が出てくる…そういうケースが出始めると、若者が地域に定着し、過疎化対策になるのではとも考えています。

**山本** そういう意味で「めしませ、近江のおむすびプロジェクト」は興味深い企画でした。若い人の発想で地域に必要なものを考えていただくと活性化が促進します。学生と地域が結びつく先進的な地域にならないか…と考えたりもします。

**沖田** 「空き家が増えた地元八日市の商店街を活性化するには？」というテーマを与え学生に考えてもらったところ、全国の有名ラーメン店を集めた「ラーメン激戦区」というアイデアが出てきました。遠近各地から人を呼ぶことができ、近江鉄道の乗客も増え、面白い企画だと思いました。

**山本** 弊金庫の職員も東近江市中心市街地活性化協議会に参画し、活性化に向けた意見交換をしています。貴学の学生さんが入ってくださる時もあるようです。是非、若い人の発想を聞かせてもらいたいと思っています。



地活性化協議会の一場面

### 包括的地域連携協定の主な内容

目的…地域社会の持続可能な発展ならびに課題解決に寄与すること

### 連携協力事項

- ・地域の活性化に関すること
- ・教育及び学術研究に関すること
- ・人材の交流及び育成に関すること

### 包括的地域連携協定締結の経緯

—本年1月、包括的地域連携協定を締結しました。(上記参照) この背景にはどのような経緯があったのでしょうか？

**山本** 近年、産官学金の連携を求められるなか、弊金庫は学とのつながりを十分に持てていなかったという課題がありました。この様な中、弊金庫本店所在地にあるびわこ学院大学様と連携を深めることは地方創生の一環となると考えていました。例えば弊金庫は、学生さんの意見や考えを地域事業者へ情報提供するパイプ役を担うことができます。従って、双方の連携により、東近江市を中心に地域課題の解決や人材交流などを通じ、人材育成や地域へのつながりを深めるべく、協定を締結させていただくこととなりました。

**沖田** 学生が卒業後も地元に着する仕掛けを考えています。既に、東近江市等との協定は締結していますが、地域金融機関である湖東信用金庫様とも連携を結び、意見交換をしながら、ともに地域の発展に貢献したいとの思いから協定の締結に至りました。双方で実効性のある取り組みを継続させていきたいと思っています。

## 「更なる地元密着を」



### 山本 英司 (やまもと えいじ)

1954年生まれ。同志社大学卒  
1977年湖東信用金庫入庫。  
2007年～常務理事、2010年～専務理事  
2014年から現職。  
滋賀県経済同友会常任幹事、滋賀県信用金庫協会会長などを歴任。  
2020年11月黄綬褒章受章

**山本** 地元企業の方も、求人を出してもなかなか学生が来てくれない…「人材難」と言われています。優秀な人材が地元で活躍してくれれば、企業・大学双方にメリットがあります。

**沖田** さらに地域の活性化につながる、そんなイメージを描いています。

### 連携協定への期待、これからの展望

－連携協定締結後、約半年が経過しました。これまでの取り組みや変化、協定への期待や展望について教えてください。

**山本** 6月上旬、子ども学科2年生を対象に弊金庫職員が講義をさせていただきました。飲食店開業の計画を作成するという授業の中で、コロナ禍で売上が落ち込む中、どうすればお客様を呼び込むことができるかというアイデアを学生さんに議論いただき、計画ワークシートを提出してもらいました。そのアイデアを弊金庫でとりまとめ、取引飲食事業者さんに情報提供するような取り組みも始まりつつあります。

**沖田** その節はありがとうございました。学生自身がローンや保険などのライフプランを考える機会にもなったようです。

私自身の話で恐縮ですが、幕末～明治時代の日本思想史を研究しており、地域の祭りや伝統文化を多く調べてきました。時代の流れと共に改廃が生じますが、伝統文化が時代を超えて受け継がれていることが尊いと考えています。

少子化が進み、大学の淘汰が今後、一気に加速します。本学が存続するためには「地域に貢献する教育機関」であり続けることが肝要です。本学へのアドバイスを期待しています。

**山本** 弊金庫では地域創生の重要性に鑑み、「地域振興部」という部署を昨年7月に創設しました。「地域振興部」の取り組みとして実施している事業のいくつかを紹介させていただきます。

- I. 若手経営者・後継者を対象とした経営塾の開講  
次代を担う経営者・後継者育成支援として、学びや出会いの機会を提供します。決算書・財務諸表の見方、Withコロナ時代の経営に必要な国、県、市の支援策の理解とその活用等について学び、経営者同士の交流の機会も設けています。
- II. ソーシャル企業認証制度の開始  
従来の金融機関の価値にとらわれず、環境や地域にとってよい影響を与える事業者を認証し、ホームページなどで紹介します。多くの企業を認証して、企業同士のマッチングを行ったり、雇用の為の合同説明会も開催できればと思っています。
- III. 東近江三方よし基金連携制度融資「ビーナス」の創設  
「世のため、人のため、地域のため」公益性の高い事業として一定の評価を得た事業者が融資を受けられる制度としています。

**沖田** 貴金庫のこのような取り組みは、全く存じませんでした。しっかり勉強させていただきます。

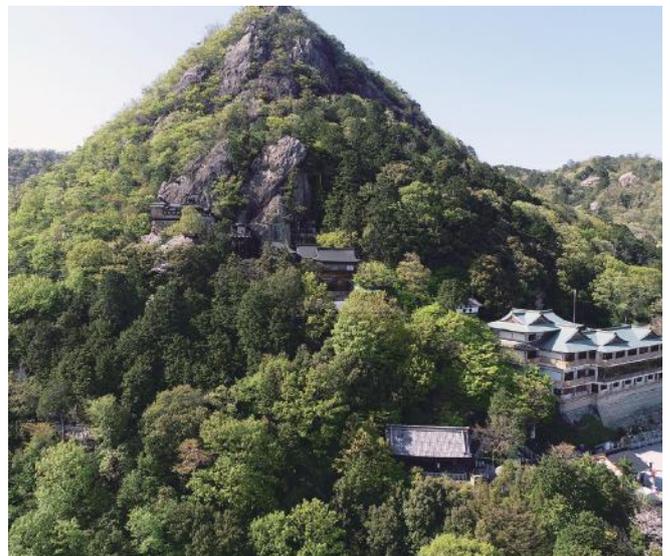
**山本** 私共の期待は貴学との協定を通じ、学生さんのアイデアを具体的に事業化していくことです。

**沖田** 定期的に意見交換の場を持ちたいと思っています。また、貴金庫も本学も東近江市と協定を結んでいます。三者での取り組みも考えられるかもしれませんね。

**山本** そうですね。貴学と弊金庫（大学と金融機関）で考えたアイデアを東近江市に提案するような流れができると良いと思います。

### －東近江の魅力をお聞かせください。

**山本** 東は鈴鹿山脈から西には日本一大きい琵琶湖に繋がっています。そして、中央には悠々として愛知川が流れていて、その周辺は緑豊かな田園風景が広がっています。周辺には、京セラや村田製作所、パナソニックなど日本でも有数の工場が多くあり、また、近江鉄道が走っていて、京都へは電車でも車でも1時間で行ける立地であり、中途半端な田舎で、たいへん住みやすい街だと思います。



東近江市の名所① 太郎坊宮

また、商運の神様で知られる「太郎坊宮」や紅葉の名所「永源寺」など、様々な観光スポットも点在しています。加えて、万葉集に詠まれた「蒲生野」や「三方よし」で知られる近江商人を輩出した五個荘など、歴史的にもたいへん魅力がある地域です。



東近江市の名所② 永源寺のみみじ

自然や歴史・文化があり、利便性も高いこの街は地理的にも中核都市と言っても過言ではありません。そんな街に私共は本店を構えており、貴学も地域唯一の高等教育機関として存在しておられる。そのように考えると、本当に良い街だと思っています。

**沖田** 着任してまだ1年半ですので知らないことも多く、なかなか自分の言葉で魅力を語ることは難しいのですが、私が日頃から感じていることは、東近江は可能性がある街だということです。

海外では大学を中心に街が造られている国や地域が多くあります。昔から景観が変わらない街。海外の多くの大学を訪問した中で、その街に生まれ、その地域で学び、働き、老後を過ごす人が多いという地方のモデルも目にしました。

時代遅れと思われるかもしれませんが、わざわざ都会に出なくても生活できるということは、一つの理想形であると思います。そう考えた時、どのように豊かな地域にしていくか、大いに可能性がある街だと思っており、それが魅力です。

### 学生への期待

—最後に、本学学生をはじめとした若者に期待されることをお聞かせください。

**山本** 大学での学びは非常に大切ですので一生懸命、勉学に勤しまれることが基本で、その中で、将来自分は何がしたいか、どんな職業に就き、どんな形で社会貢献をしたいのかを見つけて欲しいと思います。そのために様々な経験を積み、色々な年代の方と話ができるコミュニケーション能力を高めていただきたいと思います。

コミュニケーション能力、考える力、発想力を有している学生はどの企業でも採用したい人材です。さらに、地域の課題を知っていること、自律的、主体的に活動できる力を持っている人材が今後、必要になってくると考

えています。

将来、我々と共に地域の発展に貢献しようとされる方が1人でも増えると嬉しく思います。

**沖田** 本学学生の皆さんには、学生同士、学内だけのコミュニティにとどまらず、地域のコミュニティに積極的に参加して欲しいと思っています。地域のコミュニティは大人が関わる世界です。地域の人々との関わりを通じて、コミュニケーション能力や責任感と言った力を身に付けてほしい。そう願っています。

本学のキャッチフレーズである「小さな大学で大きく学ぶ」。学生生活は4年間（または2年間）と限られていますが、この時間をどう使うかは学生の皆さん次第です。皆さんが、大学での学びや大学生活での成長を自分自身で説明するためには、やらされる（受け身の）学びでは無く、自ら意識して取り組む（主体的な）学びが必要になってきます。

豊かな想像力を駆使して、挑戦や失敗を恐れず、学生生活を精一杯歩んでいただきたいと願っていますし、意欲がある方の成長に寄与する教育を提供していきたいと思っています。

**山本** 沖田学長の熱い思いを聞かせていただきました。

**沖田** 私も金融機関の取り組みを知ることができ、勉強になりました。本日は、本当にありがとうございます。

**山本** こちらこそ、ありがとうございました。

## 「地域に貢献できる人材育成を」



**沖田 行司** (おきた ゆくじ)

1948年京都生まれ。同志社大学大学院 文学研究科 文化史学専攻博士後期課程修了。  
同志社大学文学部講師、助教などを経て、1990年から教授。  
2005年より社会学部教授。  
2019年3月に退職し、2020年4月から現職。専門は、教育史

### お知らせ

近江鉄道を舞台にした自主制作映画が制作中です。

映画制作実行委員会に子ども学科 パンジュイン教授が参加し、教育福祉学部地域調査プロジェクトチームや沖田学長もこの映画に出演しています。詳細は、まちづくりネット東近江ホームページ (<http://e-ohminet.com/>) で

## 地域における教育実践 ～学生の声～

自治体、市民、学校等と連携した地域密着型の活動で、令和2（2020）～令和3（2021）年度に本学学生が参加（一部参加予定を含む）したものととして、以下のような取り組みがあります。これらの活動への参加を通して、学生達はどのようなことを感じたのでしょうか？実際に参加した学生や、指導する先生の声を聞いてみました。



市内の高齢者を対象とした体力測定会と健康教室  
(P6参照)



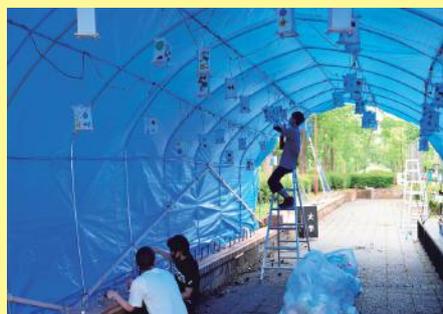
就学前児童から科学の面白さを体感させる実験・ものづくりプロジェクト  
(P7参照)



附属こども園での七夕演奏会



子どもの手がた足がたを用いたオリジナルグッズづくりを通して、楽しもう、知ろう、広めようオレンジリボン運動  
(P8参照)



東近江市のイルミネーションイベント『コロナリ』への参画  
(P8参照)



東京五輪聖火リレーの沿道警備ボランティア



東近江市の小学生を対象にしたスポーツイベントBGUキッズ



子どもたちへの性犯罪予防のSNSの使い方啓発活動



ポストコロナにおける大学生によるカナヅチ児童を対象とした水泳教室  
～運動介入による小大連携への模索～



東近江市中心市街地活性化に関する実証的研究



ゼミ活動で大学周辺のごみ拾い



競技人口が減少しているスポーツの競技人口増への取り組み

# スポーツイベントへの参加、実践を通じた学び



酒井 優希さん



西田 涼平さん

スポーツ教育学科 3年生

教育福祉学部スポーツ教育学科では、地域における課題を知り、スポーツイベントを通して課題解決に取り組むため、1年次から各種スポーツイベントに参加しています。

2年生の卒業必修科目「スポーツ教育学基礎演習II」の授業では、スポーツの果たす役割や課題を踏まえ、理論と実践をつなぐことを目的に、大学周辺地域の健康教室の企画・運営に携わっています。この活動は、平成27（2015）年度から6年続いており、地域の高齢者の方も、学生達との交流を楽しみにしてくださっています。

令和2（2020）年度に永源寺地区での健康教室に参加した学生に話を聞きました。

**2年生で参加した健康教室では、地域の方々の熱烈歓迎があったと聞きました。**

**酒井** 私達が来ることを本当に楽しみにしてくださっている様子が伝わってきました。若い方が少ない地域のため、例年、歓迎頂いているようです。

**西田** コロナ禍の中、15名程度とはいえ大学生が一堂に集まることを怖がっておられるかもしれないという不安もありましたが、「よく来てくれた」と言ってもらい、安心しました。今までの先輩方の活動や先生のおかげです。

**健康教室への参加には複数のステップがあると聞いています。どのようなものか教えてください。**

**西田** ①夏休み期間中に健康教室に参加し、概要を理解した上で、②秋頃に健康教室に参加されている高齢者の体力測定会を実施し、体力を分析、体力アップのためのメニューを考え、③2~3月に自分たちで健康教室を実施するという流れです。

**酒井** 体力測定の結果から、体力や健康問題、要望等を整理し、グループで健康教室のねらいや目標を考え、具体的内容を検討しました。いくつかの種目・ルールを考えましたが、リハーサルをすると問題点が続出し、何回もやり直しました。

**西田** 地域の高齢者の方が実際にどれくらいできるのか何ができないのか、どのように伝えれば理解してもらえるのかなど、相手の立場になって考えることが、とても困難でした。また、コロナ禍

で活動に制限があるなか、できること、できないことを考えるのも困難でした。



健康教室の一場面

最後の健康教室で配布されたリーフレットは、とても立派なものでした。

**酒井** ありがとうございます。皆で力を合わせてメニューを考え、失敗を繰り返しながら取り組んできたので、何とか良いものに仕上げたいという思いが強くありました。できた時も嬉しかったですが、本番の健康教室でも参加者の皆さんに喜んでいただけました。

**西田** 平田地区の健康教室に参加した別のグループは、参加者全員分のDVDを作成されていました。この健康教室だけで終わってもらうのではなく、これからも家でも継続して体操ができるようにとの思いから、私達もYouTubeにアップした動画をリーフレットの中に取り込みました。昨年の秋学期は、学生同士でたくさん議論を交わした記憶があります。



奥永源寺地区健康教室への参加者向けに作成したリーフレット (抜粋)



平田地区健康教室への参加者向けに作成したDVD

**1~2年次に様々なスポーツイベントに参加されました。自分自身の成長にどのような影響を与えていますか？**

**酒井** 何名かでグループを作って課題を共有し、課題解決に向けチームで取り組む経験を積みました。今まで、主になって取り組むようなことはなかったので、途中、色々な不安や困難がありましたが、今振り返ると、知識を活用しコミュニケーションを取りながら、それぞれの役割を果たして課題を解決するという、社会に出るにあたり必要な力を身に付ける機会であったと思います。

**西田** 陸上競技をしていますので、スポーツイベントに多くのスタッフの方が携わってくださるのは理解していました。ただ、1年次のボランティア体験、2年次の健康教室への参加など、授業を通してイベントに参加した経験から、今まで以上にスタッフの方に感謝する心が身に付いた気がします。また、課題解決に向け息詰まることもありましたが、最後まであきらめずに考え続ける忍耐力も身についた気がします。

**酒井** 3年生では、地域子ども達を対象に体力向上を目的にした「BGUキッズ」という取り組みがあります。これは、2年生のクラスでの取り組みとは違い、ゼミ単位で企画・運営をする内容になっています。

**西田** 対象者が高齢者から子どもになり、また、企画運営するのもクラスではなく、少人数になるので不安がありますが、これまでの経験を活かし、さらにより良いものにして、子どもたちの笑顔が見られるものになりたいと思っています。

# 子ども達に科学の楽しさを!

大津市科学館で実施されている「わくわくサイエンス」「少年少女発明クラブ」に、子ども学科3・4年生の学生達が講師や運営スタッフとして関わっています。子ども達に科学の楽しさを知ってもらうために取り組む学生に話を聞きました。

## わくわくサイエンス

## 少年少女発明クラブ



おしただに ゆき  
押谷 有紀さん



子ども学科3年生  
おだにあらた  
小谷 新さん



みずかみ りな  
水上 梨奈さん

### わくわくサイエンスについて教えてください。

**小谷** 毎週土曜日、日曜日、祝日に実演実験や科学工作をされる催しです。科学に関する実験はもちろん、簡単で楽しい科学工作もされています。内容は、毎回変わります。

**押谷** 子ども学科 箱家ゼミの3年生が、毎月1回講師を担当しています。6人を2グループに分けているので、自身の担当は年間4回程度になります。1回の講演時間は20分です。

### 実験のテーマは全て自分達で考えるの?

**押谷** 最初は箱家先生のアイデアを自分たちでやります。途中からは自分たちで考えたアイデアを先生に確認いただいた後、実演する形です。1回目は「動く4コマ漫画」というテーマで、視覚で絵が動いて見えるというおもちゃと一緒に作りました。

**小谷** 1回目は「しゃぼん玉」をテーマにしました。割れにくいもの、水中でつくるもの、テーブルの上に置いた洗剤の上で作るとドーム型になるもの、これらを子ども達と一緒に作って遊びました。20分の実験をするために、約6時間の準備をしました。

**押谷** リハーサル→修正→リハーサル→修正…と、私も準備に6時間程度の時間がかかりました。



### 本番は順調に行きましたか? 困ったことは?

**小谷** 最初、すごく緊張しましたが、話す速さなど途中から修正しながらできたと思います。

**押谷** 普段は緊張するタイプですが、子ども達の反応に助けられ、リズムよく進行することができました。

**小谷** 水中でつくる「しゃぼん玉」を事前練習で完璧に仕上げたつもりでしたが、配合割合が原因で本番では失敗もしました。ほんの僅かの違いでしたが、自分たちの勉強にもなりました。

**押谷** 小学生対象と聞いていて、そのつもりで準備をしていましたが、当日は3歳～5年生まで幅広い年齢の子どもがいました。臨機応変な対応をしながら、20分に収めるのに苦労しました。

### 今後やってみたい実験テーマや思いがあれば教えてください。

**押谷** 酸とアルカリで生じる色の違いを活かし、水溶液の性質の違いを理解する実験を考えています。

**小谷** 予想に反する現象が起きる実験をして子ども達を驚かせ

たいです。その時の子どもの反応にも注目しています。また、会場には保護者の方もたくさんおられるので、大人も驚かせる実験を考え披露したいと思っています。

**押谷** わくわくサイエンスで子どもと関わる機会を意識的に持ち、自分の引き出しを増やしたいと思っています。



## 少年少女発明クラブ



### 発明クラブについて教えてください。

**水上** 子どもたちが科学的な活動にチャレンジするために実施されており、小学4年生～中学生が対象となっています。箱家先生は小学5年生を対象にした活動を担当されており、毎回20名を超える子どもが参加、学生2～3名が補助として入っています。メニューは全て箱家先生が考えてくださっていて、私達には具体的な補助内容を指示してくださいます。昨年度、偶然、先輩から声をかけていただいたのがきっかけで参加し始め、今年は4～8月上旬に4回参加しています。

### 補助業務はどのような仕事?

**水上** 参加者全体を見渡しながら、困っている子どもに声をかけ、必要に応じて手助けをする仕事です。カムを使った動くおもちゃ作りで、木を切ったり穴を開けたりします。できる限り子ども達にさせるのですが、大人がいないとできない作業を一緒にしました。のこぎりを使った作業で手を切る子どもが出た時はドキッとしましたが…



### 理科を好きになったきっかけは?

**水上** 小学4年生の時に理科を教えてくださいました先生が、とても理科好きで、「超」がつく熱心な先生でした。その時に楽しいと思ってから理科の苦手意識が無くなり、中学・高校と理科好きが続きました。

大学では養護教諭が第一志望ですが、小学校教諭の免許もあわせて取得したいと思っています。履修しなければならない授業は多いですが、どちらも好きなので全く苦ではありません。発明クラブの補助業務も楽しんで参加しています。

### 皆さん卒業後は教師を目指されますが、自分が描く先生像があれば教えてください。

**押谷** 学び続け、知識・経験をグレードアップしていくことが大切だと思っています。子どもの成長を一番に考え、教育にあたる先生でありたいです。

**小谷** 「あきらめない、粘り強さ」を持った子どもを育てられる先生を目指します。

**水上** 尊敬できる先生は、学び続けることを大切にされている方だと思っています。私自身も子ども達と一緒に成長できる先生になりたいと思っています。



子ども学科  
4年生  
ふくもと はつな  
福元 初音さん



子ども学科  
4年生  
もりた かよ  
森田 佳代さん

**オレンジリボン運動への取り組みはいつから？それまで、この運動は知っていましたか？**

**福元・森田** 榎本祐子先生のゼミに所属した3年生からです。  
**森田** 子どもの虐待防止の活動とは認識していましたが、言葉として知っている程度で、詳しくは知りませんでした。

**具体的な活動実績について、教えてください**

**福元** まず、子ども虐待について学び、その後、新型コロナウイルスに関する子ども向け紙芝居動画の作成と公開、オレンジリボン運動啓発用のInstagramの開設と運営、オリジナルエコバッグ作成イベントを実施しました。

**特に力を入れた活動は？**

**福元・森田** オリジナルエコバッグ作成イベントです。布製のオレンジリボンが入ったエコバッグを作成し、そこに親子で協力して、子どもの手がた・足がたを押して頂きます。八日市・近江八幡の2会場で、計50組以上の親子に参加いただきました。



**森田** 保育実習等を通して子どもと接する経験は積んでいましたが、保護者の方と接する機会はとても貴重でした。親子が楽しんでイベントに参加してくださるのは嬉しかったです。

**福元** コロナ禍の中、対面で実施できたイベントがそれだけでしたし、入念に準備をして臨みました。

**この活動を通して学んだこと、自身の成長について**

**福元** イベント時は皆さん楽しんでくださいましたが、全体の振り返りを行う中で、「保護者の見えない悩みに誰が気づくのか？」ということを考えるようになりました。大学の実習では保護者の方と関わる機会はなく、子どもを見る視点だけでしたが、保育士として仕事をする上で、保護者の視点という新たな視野が加わったように思います。

**森田** 終了後のアンケートで、子育てにご苦労されている保護者が多くおられる事実を知り驚きました。卒業後、保育士を目指していますが、貴重な学びの機会となりました。

**福元** 考えた企画が子育て中の保護者の方に一息つける空間を提供できていたとすれば、これが一番嬉しいことですし、まさしくオレンジリボン運動に貢献できたのかと思っています。

**森田** 虐待報道は耳にしますが、なぜ生じるのか疑問で、どこか他人事でした。この活動を通じて、授業だけでは学べない保護者(特に母親)の苦しみ、すぐ身近にあることを実感しました。

**福元** 楽しそうに見えたお母さんの多くが、「子育てに苦労されている」と答えられたことは本当に驚きでした。表面だけではわからない「思い」があること、その「思い」をくみ取れるような人間になりたいと思います。



**イルミネーションイベント『コトナリエ』の参画を通じて**

子ども学科 講師 **和田 健一**

3年生のゼミ生が中心になって、コトナリエ・イルミネーションづくりのワークショップを行いました。題材の設定から材料の吟味、当日の小学生への指導まで全て学生達が行います。

当日は、計40組の親子連れのお客様で賑わいましたが、和気あいあいとした雰囲気の中でとても楽しく活動できました。会場の飾り付け作業では、本学のボランティアサークルのメンバーも加わり、地域の大きなこのイベントの中に、びわ学の学生たちが確かな存在感を示していることを実感した次第です。



ワークショップ当日の様子

※表紙写真はコトナリエ2021での本学学生の作品です。



**地域における教育実践への期待**

地域連携研究支援委員会 委員長  
子ども学科 教授 **片山 弘紀**

本学は、「地域に貢献できる人材育成」を建学の精神としており、「小さな大学で、大きく学ぶ」をキャッチフレーズに、教職員と学生の距離が近くコミュニケーションを大切にしながら、現場での実践を重視した教育を実施しています。

大学・短大ともに地元である滋賀県出身の学生が多く、滋賀県で就職を希望する学生が多いなか、人々の生活文化、風景、産品などの魅力に出会い、交流を深めることで、地元を知り、滋賀に愛着を持って就職を希望する学生が1人でも増えることは、本学にとってたいへん重要なことだと思っています。

学内の授業で得た学びを現場で実践し、実践を通してより深く学ぶ…教育実習・保育実習に代表される学外実習に加え、自治体や市民と連携した地域密着型の活動に取り組む学生達の活躍を目にする機会が増えていることは、嬉しい限りです。

学生の皆さんには、地域で学ぶ機会があれば積極的に参画し、その中で精一杯取り組み、学びを深めて欲しいと思っています。

## 子ども学科

学科長 箱家 勝規

子ども学科では、今年度1年生92名の入学があり、6月末で子ども学科総勢330名となりました。少しずつではありますが、子ども学科を目指してくれる学生がこの数年増えてきたことをとてもうれしく思っています。

最近の子どもたちを取り巻く環境は、児童虐待、いじめ、不登校、学力向上、発達障害などより複雑になり、その理解や的確な対応が求められています。このような様々な課題解決のために、夢と希望と使命感を持って子ども学科で勉学に励んでくれている学生の姿はとても頼もしく感じます。

さて、新型コロナウイルス感染症の感染防止のために「新入生宿泊オリエンテーション」は残念ながら今年度も中止としました。しかし、在学生主催の「歓迎オリエンテーション」を半日にわたり開催することができ、新入生同士や在学生と繋がるきっかけとなりました。これからの4年間の大学生活を見通したときに、支えられたり支えたりする多くの仲間の存在は重要になってきます。だからこそこのような入学直後のよりよい人間関係づくりを意識した取り組みは欠かせないと思っています。



新入生オリエンテーションでの一場面

今年度の春学期は昨年度と異なり、ほぼすべての授業で対面授業を続けることができました。あらためて、学生ひとりひとりの顔を見ながら議論したり、発表を聞いたりする授業ができる幸せを感じています。

1、2年生が学園祭で行なう「わくわくフェスタ」の準備は順調に進んでいます。昨年度は学園祭自体が開催できませんでした。が、「わくわくフェスタ」については徹底した感染対策をとり実施することができました。学園祭はなかったにもかかわらず、近隣の幼稚園や保育所から450名を超える親子の来場があり、子ども学科の10年余りのこの活動が地域にしっかり根付いていることを強く感じています。



わくわくフェスタの準備をする1、2年生

## スポーツ教育学科

学科長 烏野 猛

今年度、日本プロバスケットボールリーグでのプレー経験もある小野寺恵介助教を迎え、教員9名体制でスタートさせました。

皆さんもご存じの通り、昨年からのコロナ禍はいまだ収まらず、ワクチン接種に期待を寄せるところではありますが、今年度いっばい我慢の時期が続くそうです。そんななか、スポーツ教育学科では地域活動の一環でもある地元東近江市とのコラボ事業、BGUキッズ等の取り組みも、感染症対策を万全にしながら、これまでと遜色のない活動を行っています。



地域の子ども達を対象としたBGUキッズの一場面

5月下旬には、東京オリンピック聖火ランナーの警備（ボランティア）に全1年生が参加し、思い出となるシーンを心に刻むことができました。



東京五輪聖火リレーボランティアに参加時の打ち合わせ風景

また、中学校・高等学校（保健体育）の教員を目指すため、教員免許状の資格取得にかかわった教育実習も、4名の学生が実習を終え、充実した学生生活を送る環境が整ってきたと実感しています。

ですが、コロナ禍にあって、スポーツ教育学科の学生の多くが一般企業に就職の意向を示すなか、来年度以降の明るい兆しは見えてくるものの、いまだ苦しい状況であることに変わりがありません。これからも、教職員と学生諸君が一つになって、学生たちが望む未来を明るいものにしていきたいと思っています。



### ライフデザイン学科

学科長（教授） 丸山 俊明

滋賀中央信用金庫・湖東信用金庫との包括協定による事業『めしませ、近江のおむすびプロジェクト』の諸企画に順延が続く中、最初の実現企画となった「滋賀の町なみセミナー」の講師を、拙著『滋賀県の町なみ』（本学図書出版委員会）の知見を元に務めました。

会場には複数のキャリアデザインコース学生や今春卒業生も参加。山本英司湖東信用金庫理事長より「自分たちの地域に誇りを持つことができた、全行員に聞かせたい」とのお言葉をいただき、ライフデザイン学科による地域貢献となりました。



### 児童学コース

講師 杉本 栄子

今年4月、児童学コースに31名の新入生を迎えました。90分授業に最初は戸惑った学生も、今ではしっかり受講できています。保育に必要な「明るい笑顔と優しい言葉かけ」を合言葉に、意欲的に取り組んでいます。

本年3月卒業生は30名で、93%が教育・保育現場に就職しています。12名が公務員試験に現役合格しました。今頃、自分の質を高めるために奮闘していると思っています。子どもたちの笑顔に救われ、ともに育ち合う保育者を目指して日々精進してほしいと願っています。在学生も卒業生も、私たち教職員がいつまでも応援しています。



### 健康福祉コース(旧：介護福祉コース)

准教授 山 和美

新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、対面授業を実施しています。特に影響が大きい介護実習についても、施設の皆さまのご理解とご協力のお陰で、8～9月の介護実習を何とか終えることができました。

また、地域で認知症の予防として開催されている「認知症カフェ」の模擬サロンを2年生が授業の中で考え、体を動かしてみんなで楽しむレクリエーションや、脳トレで「なぞなぞゲーム」や「カードゲーム」を実施しました。2年間という限られた時間の中で、しっかり学び、どんなことも、創意工夫できる介護福祉士になってほしいと思います。



### キャリアデザインコース

教授 長嶺 共全

入学時から新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている2年生は、多くの学生が2月のインターンシップ実習を無事に終え、コロナ禍で様変わりした就職活動に立ち向かいました。卒業まであと半年。1人でも多くの学生が希望する進路を実現できるよう、サポートしていきます。

キャリアデザインコース1年生の多くは、学内で行われた日本語ワープロ検定試験に挑戦していました。写真はパソコン教室で勉強する1年生の様子です。今年度は、春学期から対面授業が実施できており、レポート課題や予習・復習のためにパソコン教室を利用する学生も増えつつあります。

## 教育福祉学部

子ども学科  
スポーツ教育学科



片山 弘紀  
子ども学科 教授

- ①高齢者福祉
- ②社会福祉援助技術論
- ③昨年以上に健康管理に気を配りながら授業を実施しています。



岩崎 信子  
子ども学科 教授

- ①健康教育、学校保健
- ②養護概説、健康相談論、学校保健論
- ③体験授業や高大連携の授業実践を通して、即戦力となる養護教諭の育成を目指します。



奥田 愛子  
子ども学科 教授

- ①身体教育学・スポーツ心理学
- ②子どもと健康、幼児体育、実習指導
- ③オンライン授業で獲得したスキルを対面授業に活かすこと、および学生との関係性の再構築



烏野 猛  
子ども学科 教授  
スポーツ教育学科学科長

- ①社会保障、危機管理
- ②社会保障論、くらしと防災
- ③コロナ禍が続く今年度、ゼミ生の就職支援・卒論指導に全力を傾けています。



小西 喜朗  
スポーツ教育学科教授

- ①特別支援教育
- ②特別支援教育論、言語療法
- ③特別支援の視点で授業内の支援の充実と実現のために、担当の先生と一緒に考え、その事例を学生の学びにしていきたい。



新屋 久幸  
子ども学科 教授

- ①医学一般、医学・養護・介護教育
- ②医学概論、解剖生理学、こころとからだのしくみの基礎
- ③パンデミックも千載一遇、学生、大学、地域とともにレジリエンスを考えていきたい。



内藤 紀代子  
子ども学科 教授

- ①ウィメンズヘルス、思春期教育
- ②保健衛生、救急処置、学校看護
- ③世界が大きく変わる時代！そこで柔軟な心（レジリエンス）をテーマとして教育に励んでいます。



鳴海 正也  
スポーツ教育学科教授

- ①特別支援教育、発達障害者の心理
- ②特別支援教育概論、知的障害者の心理
- ③障がい者への他者理解ってどんなものなのか？そのものの在り方を深く考えていきたいと思っています。



箱家 勝規  
子ども学科教授・学科長

- ①科学的思考力の育成
- ②教科教育法理科、生徒指導論
- ③I. 自分の体力を維持するためにエスカレーターを使わないこと  
II. 『手紙』を書くこと



パンジュイン  
子ども学科 教授

- ①文化研究、映像人類学、まちづくり
- ②地域社会学、家族社会学、中国語
- ③近江鉄道を利用した沿線の観光資源開発と東近江市中心市街地活性化の実証的研究。映画『ガチャコン』制作予定



南 雅則  
子ども学科 教授

- ①環境移行期の学校適応・不登校
- ②学校教育心理学・教育相談の基礎
- ③PCAGIP法を用いた事例検討会の学校現場への導入や不登校の親の会を開催したいと考えています。



吉見 謙  
スポーツ教育学科教授

- ①水泳競技方法論、コーチ学
- ②スポーツ生理学、水泳
- ③学生の主体的な学びを引き出すため、頭だけでなく体も使って学ぶ喜びを体感してもらうこと。



深田 直宏  
子ども学科 准教授

- ①体育科教育学、スポーツ教育学
- ②教科教育法体育、教職実践演習
- ③学生が、学校現場でいかなる実践的な力を身に付けるための授業を提供していくこと。



和田 充弘  
スポーツ教育学科准教授

- ①日本教育史・日本文化史
- ②道徳教育の指導法、教職概論
- ③東近江市近江商人博物館所蔵、時習齋蔵書の調査研究をしています。五箇荘にあった寺子屋です。



内山 育子  
子ども学科 講師

- ①音楽表現（声楽）
- ②子どもと音楽 I、II、III、IV
- ③生での音楽鑑賞がコロナの影響でかなりの制限を受けていますが、生演奏をお届けしています。



榎本 祐子  
子ども学科 講師

- ①子ども家庭福祉 子育て支援
- ②子ども福祉学概論 家族援助論
- ③学生よし、大学よし、地域よしの活動として、学生とオレンジボン運動に取り組んでいます。



川副 知佐  
子ども学科 講師

- ①幼児教育、保育学
- ②幼児理解論、保育指導法総論 幼保実習指導
- ③学生が「子どもの育ち」に興味を持ち、「自分達で学びを深める面白さ」に気付けるようなきっかけ作り。



- ①特別支援教育
- ②特別支援教育論
- ③幼児期から学童期にある主に知的障がい児について園や学校での実践を踏まえた事例研究を行うこと。

後藤 真吾  
スポーツ教育学科講師



- ①比較教育学
- ②教育課程総論、教育方法・技術論
- ③本年度は、進級制度の研究を継続しながら、学科を越えた協同学習の実践に力を入れています。

白銀 研五  
子ども学科 講師



- ①スポーツ心理学
- ②スポーツ心理学、ダンス
- ③選手の心理サポート  
体力維持のための運動(口だけになっているので今から力を注ぎます！)

竹内 早耶香  
スポーツ教育学科講師



- ①スポーツマネジメント
- ②ボランティア論、スポーツマネジメント
- ③コロナ禍により社会で学ぶ機会が減った今だから出来る新たな繋がり場の模索をしています。

原田 ひとみ  
スポーツ教育学科講師



- ①幼児教育
- ②子どもと図画工作、図工科教育法
- ③少人数であることを活かしてできるだけ多くの学生と触れ合い、一教員としての教職を全うすること。

和田 健一  
子ども学科 講師



- ①比較教育学、教育制度学
- ②教職入門、子ども教育学概論
- ③コロナ禍でインドに行けないため、家でスパイスカレーが作れるように昨年から励んでいます。

渡辺 雅幸  
子ども学科 講師



- ①スポーツ教育学、体育科教育学
- ②体育実技、教育実習指導
- ③「スポーツ・教育に携わる人物になるための力をつけたい」のサポート・研究に注力しています。

小野寺 恵介  
スポーツ教育学科助教

短期大学部  
ライフデザイン学科  
児童学コース  
健康福祉コース  
キャリアデザインコース



- ①教育史、国語教育、幼児教育
- ②教育原理、幼児国語、教科教育法
- ③学生が、授業や実習に対し主体的に取り組めるような環境づくりに力を入れたいと思っています。

榎本 恵理  
教授



- ①物理学・情報学
- ②パソコン活用Ⅰ、パソコン活用Ⅱ、情報処理論
- ③令和3年度も相変わらず、研究と教育に力を注いでいきたいです。

長嶺 共全  
教授



- ①日本史・建築史・都市史
- ②現代基礎教養社会B、地域とくらし、地域政策入門
- ③研究成果を世に問う作業に注力中です。(6月に「滋賀県の町なみ」出版)

丸山 俊明  
教授・学科長



- ①社会福祉学
- ②認知症の理解、介護過程、生活支援技術演習
- ③自分が住んでいる地域での認知症予防について、サロンの運営方法等を考えてみたいと思います。

山 和実  
准教授



- ①保育、幼児教育
- ②保育原理総論、子ども言葉
- ③『魅力ある保育者』を目指して、保育・教育の専門的知識と実習での実践を全力でサポートしています。

杉本 栄子  
講師



- ①幼児の人間関係
- ②幼児教育全般
- ③保育者は子どもの心と笑顔を繋ぐ保育のポケットが重要なので、講義の中で力を入れていきます。

高橋 容子  
講師



- ①音楽教育、音楽療法
- ②幼児音楽、保育内容音楽表現
- ③東近江市主催の子どもミュージカルやコンサートに学生が出演し地域の子どもと関わる取組みに力を注いでいます。

竹下 則子  
講師



- ①社会福祉学、介護福祉学
- ②介護の基本、生活と福祉ほか
- ③コロナ禍という状況の中、良い職場作りのために施設職員の労働意識や専門性の研究をしています。

山ノ井 勉  
講師



- ①介護福祉学・看護学
- ②医療的ケア・障害の理解 他
- ③昨年はイラスト・写真・アニメーションを使い、授業すると好評でした。今年もこつこつ作っています。

吉原 真紀  
講師



- ①臨床心理学、行動分析学
- ②基礎心理学、臨床心理学
- ③充実した講義の提供のために資料の検索と通読、研究実施のための体制づくりに力を入れています。

伊藤 雅隆  
助教

## 令和3（2021）年3月卒業者の 進路決定状況等について

進路・就職支援課

今春、大学の教育福祉学部では、子ども学科の9期生、スポーツ教育学科の4期生が卒業しました。学生自身の努力と本学での4年間にわたる教育、「基礎学力養成講座」、「採用試験対策講座」などの講座の実施により、難関の教員採用試験や公務員試験において、すばらしい実績をあげることができました。また、コロナ禍の中でしたが、就職内定率も8年連続で100%を達成できました。

子ども学科の採用状況は、公立小学校教諭4名、公立学校養護教諭2名、幼稚園・こども園・保育所等では、公立に7名、私立に6名が、地方公務員（行政職等）に3名が正規採用されました。また、公私立学校・園に12名が臨時採用となりました。高齢者福祉施設や障がい者支援施設等の福祉施設には15名が、一般企業等に10名が就職しました。就職者の78%が教職・福祉関係に就職したことになります。また、4年目となったスポーツ教育学科では、東近江消防本部に1名、陸上自衛隊に1名が正規採用されました。この他に社会福祉施設・医療関係に4名、一般企業等に28名が就職しました。

教育福祉学部全体の教員採用は、現役生が6名、過年度生の6名と併せて12名が正規採用され、この4月から教壇に立っています。

短期大学部ライフデザイン学科では、11期生が卒業しました。コロナ禍の影響を受けた業種からの求人は大きく落ち込みましたが、就職を希望する学生は全員就職することができました。介護福祉士コース卒業生の介護福祉士国家試験の合格率は、全国平均の77%を上回る86%で、県内を中心にケアワーカーとして福祉施設や障がい者施設等に就職しました。1名は高島市職員として正規採用されました。キャリアデザインコースの卒業生も、取得資格を活かしてサービス業、製造業、金融業、卸売・小売業等に就職しました。また、3回目の卒業生を出した児童学コースも、11名が公立に合格するなど90%が幼稚園教諭・保育士として就職しました。

今年度につきましては、途中経過ではありますが、教員志望の子ども学科20名、スポーツ教育学科3名のうち、採用試験の一次試験において、小学校に13名、養護教員に3名、特別支援学校に1名、中学校保健体育に1名が合格しています。また、公立の幼稚園等の一次試験についても、四大生が9名、短大生が5名合格しています。他の学生につきましては、コロナ禍で企業の採用意欲に低下が見られますが、学生の進路保障のため、危機感をもってより一層力を注いでまいります。

## 令和3（2021）年3月卒業者の 教員免許・資格取得状況等について

教務課

### 【教育福祉学部】

学 科	子 ども		スポーツ 教育	計
	子ども教育	子ども福祉		
卒 業 者	32	34	40	106
小学校教諭	14			14
幼稚園教諭	4	24		28
養護教諭	12	1		13
中学・高校教諭 (保健体育)			—	—
特別支援学校教諭 (知・肢・病)	1		—	1
保育士資格	3	24		27
社会福祉士		2		2
健康運動実践指導者			1	1

- 子ども学科卒業生66名中、いずれかの免許・資格を取得した学生は56名（84.8%）で、その内2種類以上の複数免許・資格取得者は29名（43.9%）である。（内、2名が3種類の免許・資格を取得した。）
- 社会福祉士国家試験の受験資格充足者が4名おり、内2名が国家試験に合格した。
- スポーツ教育学科の卒業生に、教員免許を取得した学生は無かった。
- 健康運動実践指導者の受験資格充足者が2名おり、内1名が試験を受験して合格し、資格を取得した。

### 【短期大学部ライフデザイン学科】

コース	児童学	介護福祉	キャリア デザイン	計
	31	14	18	63
幼稚園教諭	29			29
保育士資格	27			27
介護福祉士		14 ※		14
情報処理士			16	16
実践キャリア実務士			14	14

※介護福祉士の国家試験義務化が平成30（2018）年3月卒業生より適用されている。介護福祉コース卒業生14名の内、国家試験合格者が12名（合格率85.7%）である。（令和9（2027）年3月卒業生までは、国家試験に不合格であっても、5年間連続して勤務することで資格取得が可能である。）

過去の教員免許の取得状況は、ホームページで確認できます。

HP <https://www.biwakogakuin.ac.jp/>

情報公開 → 教育職員免許法施行規則に基づく公表

# 本学卒業生 ノーサインが滋賀県住みます芸人に就任



**乾 (いぬい)**

1994年2月生まれ、27才、  
B型、能登川高校出身  
高校時代は硬式野球部に所属。教育福祉学部子ども学科で小学校教諭の免許を取得し、卒業後は小学校教諭として2年間教壇に立った経験を持つ。  
趣味は、野球、ボウリング、バドミントンなど

**北斗 (ほくと)**

1994年3月生まれ、27才、  
B型、甲西高校出身  
趣味はバイク。大学時代、夏休み等の長期休暇になると、中国地方まで原動機付自転車で1人旅をしていた。各地の風景や景色を撮るために始めたカメラも今では趣味になっている。

ノーサイン (左から乾 (いぬい) 北斗 (ほくと))

滋賀に暮らしながら地域活性化や魅力発信で地域を盛り上げる吉本興業のプロジェクトにおいて、本学卒業生同士のコンビ ノーサインが今年4月から「滋賀県住みます芸人」に就任しました。

ノーサインは、近江八幡市出身の乾さんと湖南市出身の北斗さんのコンビ。2人は、本学教育福祉学部子ども学科の4期生(平成24(2012)年4月入学)で、卒業後2年間の社会人生活を経た後、吉本の養成所に入り、令和元(2019)年4月にプロデビューしました。

本学オープンキャンパスに参加してくださった8月7日(土)、「滋賀県住みます芸人」への意気込みや、今後の目標について話を聞きました。

・「滋賀県住みます芸人」への就任の経緯や、現在の仕事内容等について教えてください。

**北斗** 養成所に入った時からずっと「住みます芸人」になりたいと言っていたので、就任できたことは本当に嬉しいです。就任時は、テレビ・新聞等のメディアにも多く取り上げて頂きました。

**乾** デビュー3年目で大役を頂きました。地元根差して魅力を発信し、地元のファンが1人でもついてくだされば嬉しいです。

**北斗** 定期的な仕事はまだ少ないですが、えふえむ草津で草津市の魅力を発信するコーナーの担当、湖南市PRのYouTube動画出演などの仕事をしてきました。滋賀県では、大先輩のコンビ「ファミリーレストラン」さんの活躍で「住みます芸人」が認知されているので、そのおかげもあって仕事を頂けています。

**乾** 「日本全国の地方の魅力を発信するYouTubeチャンネル」(※)に、甲賀流リアル忍者館での取材を投稿したところ、5月の月間アワードに選出頂きました。

※「Cheeky's channel ~チーキーズチャンネル~」

・お2人も大学卒業後、就職されました。2年間の社会人経験を経て、養成所への入所を決意された時はどんな感じでしたか？

**乾** 大学卒業時の進路選択の際は、お笑いの仕事など全く考えず、大学での学びを活かして小学校の先生になりました。小学校の先生はたいへんでしたが、やり甲斐がある仕事でした。ただ、仕事を始めてから、徐々に大好きな「お笑い」に挑戦してみたという考える自分がいたことも事実です。

**北斗** 学生時代は大学祭や地域のお祭りなどで漫才を披露していました。就職後、週末は仕事で漫才を披露する機会がかなり減りました。そんな時に乾と話をし、お笑いの世界に挑戦したい

思いで一致し、養成所入所を決めました。大学卒業後は一般企業で勤務していましたが、養成所入所前の半年間は、大学での学びを活かすため児童館に勤めました。

**乾** 大学3・4年時の大学祭は、超満員の体育館で漫才をさせてもらいました。養成所時代も大きな緊張が無かったのは、びわ学の体育館で度胸がついたおかげだと2人で話していました。

**北斗** 大学時代に考えたネタを改良して今でも使っています。子ども向けのイベントなど、ボランティア等で様々な場所に行った経験が、間違いなく今の自分たちに活かしていることを実感しています。最近になって、花月(なんばグランド花月)での前説の仕事月2日、頂けるようになりました。花月の舞台に出ている時は、自分が芸人であることを実感できる時間です。

**乾** 僕たちの前説を見に来て下さる方もいらっしゃいます。

・お2人のアピールポイント、また、「住みます芸人」への意気込みや今後の目標・抱負について教えてください。

**北斗** 子ども達も楽しんでもらえる「リズムネタ」が僕たちの特徴です。内容はすぐにわからなくても、動きで笑える…幅広い層に楽しんでもらえる笑いを考えています。

**乾** 大学での学びを活かし、将来は、Eテレ(NHK教育テレビ)に出たいです。また、YouTubeの編集作業も担当しているので、多くの方に見て頂ける動画を作成したいと思っています。

**北斗** バイク、15台所有しているカメラ等の趣味があります。将来的に趣味が仕事につながればと思っています。

**乾** 社交性あって、絶えず笑顔でいることが長所です(笑)僕たちは仲よしコンビで売り出しているのですが、どちらか1人ではなく、2人セットで仕事をさせてもらっています。自分が知らない滋賀の魅力を勉強しながら、発信していきたいです。

**北斗** 「住みます芸人」就任はゴールではなくスタートです。ここから滋賀の魅力をたくさん伝えていきたいですし、少しでも滋賀県民の皆さまにノーサインを知って頂き、応援して頂ければ有り難いと思っています。

**乾・北斗** 滋賀県での単独ライブを目標に頑張ります!

**YouTube ノーサインのサインはバント**  
<https://www.youtube.com/channel/UC34sZh5rktouZU3hm9DJ2-w>



# 2021 秋のオープンキャンパス

10月16日 土 13:00 ~ 16:30

イベント  
内 容

大学短大概要説明／体験講座／個別相談／  
キャンパスツアー／1・2年生向け入試解説／  
面接対策講座／推薦過去問対策講座 など

高校1・2年生にオススメ！職業理解から始めよう

## 幼稚園教諭・保育士まるわかりイベント

12月12日 日 13:00 ~ 16:30

イベント  
内 容

総合説明／実習報告／卒業生トークショー／こども園見学／  
在学生との交流／キャンパスツアー／個別相談 など

おすすめ  
ポイント

専門職として活躍中の卒業生による「卒業生トークショー」は、職業の実際を知る貴重なイベントです。「総合説明」は、幼稚園教諭・保育士に関するすべてについて、わかりやすく説明します。

新型コロナウイルスの感染状況等により、内容等を変更する可能性があります。最新の情報は大学公式WEBサイトをご確認ください。

### オープンキャンパス・イベントにご参加いただくにあたって

みなさまに安心してご参加いただけるよう、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し実施します。  
会場での密を避けるため【事前予約制】とし、人数制限を行いますので参加申込にご協力をお願いします。



詳細・申込フォーム



びわこ学院大学

びわこ学院大学短期大学部

〒527-8533  
滋賀県東近江市布施町29

[4年制] 教育福祉学部 子ども学科/スポーツ教育学科

[2年制] 短期大学部 ライフデザイン学科 (児童学コース・健康福祉コース・キャリアデザインコース)

お問い合わせ先 [入学センター] 0748-35-0006(直通) [e-mail] cl-admin@newton.ac.jp